

平成 19 年度 第 2 回審判員全体研修会

平成 19 年 12 月 2 日 (日)

1. 公認審判員制度の改正・・・審判のスペシャリストの育成

審判員名称

- ① A級公認審判員
- ② B級公認審判員 (今までの指導審判員)
- ③ C級公認審判員 (今までの普及審判員)

2. 競技規則留意点

- (1) サービスが打たれた瞬間にインプレーとなる。
- (2) 副審がインディアカボールを保持するのは、休息のタイムアウト及びセットの終了、ゲーム終了時である。
- (3) サービスのローテーションが分からなくなった場合でも、副審に確認することはできない。
- (4) 記録員がいる場合は、記録員の得点の方が得点係の得点よりも有効である。
- (5) 後列競技者のアウトオブポジションは、左右に対するものはない。
- (6) サービスされたインディアカボールは、フロントゾーン内でネットよりも高い場合、いかなる競技者も打ち返すことはできない。
- (7) 線審が行うハンドシグナルで、ライン近くに落ちた場合に「グッド」あるいは「アウト」のほか「ワンタッチ」も判断する。
- (8) アタックが決まった後にセンターラインを踏んでも、パッシング・ザ・センターラインの反則とはならない。(一連動作の説明削除)
- (9) ダブルファールは相対するチームの 2 人の競技者が、同時に個々の反則をした場合である。時間差があった場合は、早い方が反則となる。

3. 審判技術の着目点

主審・・・競技開始前の手順

- ホイッスルの明確さ
- ホイッスルのタイミング
- ハンドシグナルの正確さ
- 判定の仕方
- 競技区域への注意力

副審・・・競技開始前の手順

- 審判の位置取り
- 休息のタイムアウトの取扱い
- 競技者交替の取扱い

審判実施で留意すべき点

主審

1. **ホイッスルは明確に吹くこと。**
2. ハンドシグナルのタイミングは、吹笛後ひと呼吸おく。
3. 反則の場合、ホイッスルは短く2つ吹く。
4. ポイント移行のハンドシグナルをしたら、サービスの許可をするまで下ろさないこと。
5. インディアカボールが競技者に触れ、触れた側のコート外に落ちた場合は、ワンタッチのハンドシグナルである。
6. グッドのハンドシグナルは、打ち込んだインディアカボールが相手競技者に触れずに直接相手コートに落ちた時に示す。
7. サービス許可の吹笛前にレシーブ側も一旦見て、準備ができているか状況を確認すること。
8. サーバーのフットフォールトには注意し、線審のハンドシグナルが無いかを確認する余裕を持つこと。
9. 副審とのアイコンタクトが重要。
10. 競技区域へ注意を払う。
11. 試合終了後、整列の合図は審判台の上で行う。
12. 競技規則第23条制裁および罰則の規定があるので、判定について執拗に話しかけることがあればチームの主将に対して警告を行う。

副審

1. **ホイッスルは明確に吹くこと。**
2. オーダーの確認はレシーブ側から行う。
3. サーブ時は、レシーブ側のアウトオブポジション、コートアウトが無いかを見ること。(足元を見る。動く範囲はアタックラインまで。)
4. 休息のタイムアウトの要求があった場合は、要求のあったチームとは反対側のチームからハンドシグナルを向けて吹笛する。
5. 競技者の交替の要求があった場合は、要求のあったチームとは反対側のチームからハンドシグナル及び吹笛をしながら、要求のあったチームのアタックラインまでスペースを開ける。
6. 主審とのアイコンタクトが重要。
7. 副審が判定すべき反則のハンドシグナル以外には行わないこと。(ただし、主審や線審が確認できなかった判定に対してはジャッジできる。)

線審

1. 線審の立ち位置は、担当ラインから約1 m程度であり、エンドライン、サイドラインが見えるように試合中は移動しながら判定する。
2. フットフォールのハンドシグナルは、旗を頭上に上げ、右、左に振り静止する。何度も振らない。
3. インディアカボールが競技者に触れ、コート外に落ちた場合はワンタッチのハンドシグナルをする。
4. インディアカボールがネット上を通過しなかったときは、アウトオブバウンズのハンドシグナルを行う。